

学校教育編

小学校学級活動指導例

○ 題材「いっしょに考えよう！どんな気持ちかな？」【学級活動（2）イ よりよい人間関係の形成】

○ ねらい

友だちの気持ちを理解したり、自分の気持ちを相手に伝えたりするために、自分ができることを考えて主体的に実践しようとする意欲を高める。

【人権教育を通じて育てたい資質・能力】

・まわりの人の気持ちを考えることができる。

○ 指導の展開及び指導上の留意点

※丸数字は「とっとりの授業改革【10の視点】」

	学習活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
導 入	1 アンケート結果から、学級の実態を知り、本時の課題をつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果から、学級内の課題をつかませる。 ・学級目標と関連づけながら、本時のめあてにつなぐ。 (①) 	
	友だちと気持ちを伝え合う方法を考えよう。		
展 開	2 今日の学習でめざすゴールを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・どのような学習活動を通して課題解決にせまるのか確認し、最後に「がんばりカード」を書くことを告げ、学習の見通しを持たせる。 	
	3 どうして、友だちの気持ちを分かろうとしているのに、嫌な思いにさせたり、嫌な思いをしたりするのかをさぐる。 4 具体的な場면을挙げ、表情カードの中から自分の気持ちに合うものを選び、どんな気持ちかを交流する。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身の経験を振り返らせながら、気持ちを伝える人と受け取る人との両面から原因を考えさせる。 ・同じ場面であっても様々な感じ方があることや、同じ表情であっても、人によって受けとめ方が違うことに気付かせる。 ・表情だけでなく、その時の気持ちを言葉で表さないと、気持ちは正確に伝わらないということを理解させる。 (②⑥) 	
	5 友だちと気持ちを伝え合うための方法を考え、グループや全体で話し合い、解決法を見付ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・個人で考えた意見をグループで分類・整理し、短冊に書かせることで、全体で考えを共有できるようにする。 ・表情カードをもとに「気持ち」について話し合うことで、様々な気持ちの受け止め方があることを理解する。 ・ペア学習により他者の発言のよさに気づかせる。 (⑥) 	

終 末	6 これからの生活において自分が取り組みたいことを決め、カードに記入する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5で出た意見を参考にし、自分に合った方法を具体的に考え、目標を設定するよう助言する。(7) 	【思考・判断・実践】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 相手の気持ちを想像したり、自分の気持ちを伝えたりしながら、よりよい関わり方を考えたり、話合いによって、自分が取り組むことを決めたりすることができる。(観察・カード)
	7 自分のめあてを発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ めあてを発表させることで、実践への意欲を高めるとともに、互いに励まし合う雰囲気をつくるようにする。(8) 	

【学習資料】 表情カード



いっしょに考えよう!どんな気持ちかな?

()年()組 名前()

◎なぜ、うまく気持ちが伝わらないのか考えてみよう。

◎友だちの意見をヒントにして、自分が毎日取り組めそうなことをそれぞれ1つずつ書きましょう。

【友だちの気持ちに気づくために取り組むこと】

【自分の気持ちを分かってもらうために取り組むこと】

◎1週間チャレンジしてみよう。

◎…よくできた ○…できた △…もう少し

	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日
友だちの気持ち に気づくために					
自分の気持ちを 分かってもらう ために					

◎ふり返りをしましょう。1週間で取り組む中で、気づいたことや感じたことを書いておきましょう。

【学習資料】

「どうしよっかな」

ある日の夕食の時、わたし（A）は、お母さんにこんな話をしました。

「お母さん、Bさんっていじめられてるんだよ」

「え、何で？誰に？」

「CさんとDさんとEさん。今日、学校から帰って来る時、Bさんの背中をドンドンって押して、田んぼに落としたんだよ。Bさんのこと、叩いたり蹴ったりしているのも見たことある」

「ええ！いつから？」

「けっこう前から」

「注意したの？」

「うん。Fちゃんと一緒に『何してるの!』って。でも『はあ？遊んでるだけだしー』って言われた」

「B君は？」

「黙ってた」

「先生は知ってるの？」

「わかんない。だって、いつも先生がいない時にしてるし」

「明日、先生に言ってみたら？」

「だめだよ！先生に告げ口したことがばれたら、わたしが無視されたり、いじめられるもん」

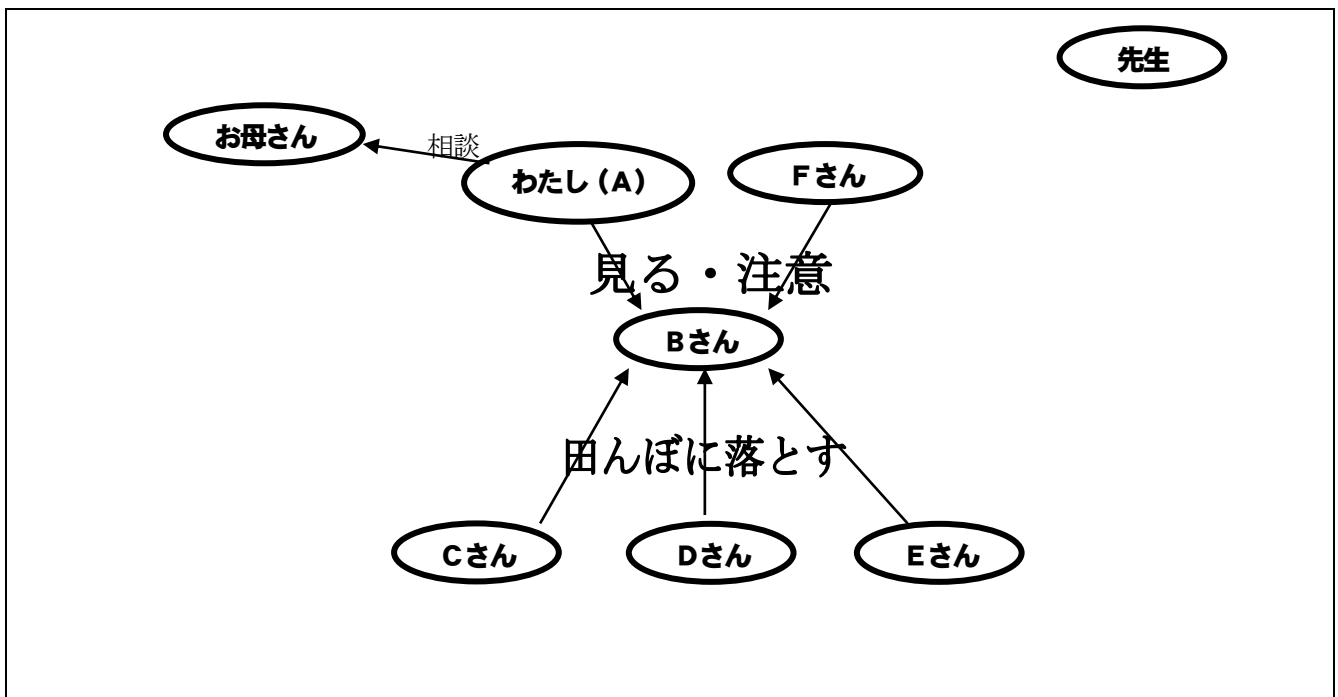
「でもこのままじゃB君がかわいそうよ」

「…」

その夜、わたし（A）はふとんに入りながら、つぶやきました。

「どうしよっかな」

《関係図》



小学校学級活動指導例

- 題材「学級生活上の諸問題 ～楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために～」
【学級活動（2）イ よりよい人間関係の形成】

- ねらい
楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、みんなで協力しながら、いじめが解消されるお話づくりに取り組むことをとおして、いじめが解消される自分にあったよりよい解決方法を考え、実践しようとする意欲や態度を育てる。

【人権教育を通じて育てたい資質・能力】

- ・自己の周囲、具体的な場面において、人権侵害を受けている人を支援しようとする意欲・態度

- 指導の展開及び指導上の留意点（2時間扱い） ※丸数字は「ととりの授業改革【10の視点】」

	学習活動	指導上の留意点	めざす児童の姿と評価方法
導入	1 めあてや進め方について説明を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> ・発言しやすいように4人組グループの座席にしておく。(⑩) ・明るい雰囲気での説明を心がけつつ、いじめは人権侵害であり決して許されるものではないことを押さえる。 ・PTA研修会で作成した模造紙等があれば、それを提示し、学習意欲を高める。(①) 	<p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な問題であることに気づき、学習に取り組もうとしている。
展開	2 資料「どうしょっかな」の続きのお話づくりをする。 (1) 資料を読み、関係図をもとにお話の状況を共通理解する。 (2) 「Bさん」のいじめが解消されるお話の続きをグループで創る。 ①個人 ②グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・役割を決め、資料を朗読させることもできる。(②) ・いじめには、資料の登場人物だけではなく、様々な人が関わっていることも想像させたい。 ・お互いの考えの良さをいかせるよう関係図に解決方法をまとめてからワークシートにお話づくりをさせる。(⑥) ・書き込みがしやすいように関係図等はA3用紙に拡大する。(④) ・お話づくりができたグループは、交流での説明（なぜこのようなお話にしたのか）を考えさせる。 	<p>【思考・判断・実践】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめが解消されるよりよい解決方法について考えている。（関係図への書き込み等）
	(3) 創ったお話を交流する。 ①説明役（2名）、聞き役（2名）を決め、交流する。 ②役を交代し、交流する。 (4) 創ったお話を修正をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・書き込みをした関係図を使って、お話の概要を説明してから、創ったお話を紹介する。(⑤) ・より多くのお話を聞き、様々な考えや解決方法に触れさせるため、交流する時間を十分確保したい。 ・他のグループの関係図に参考になる関係があればシールを貼らせる。 ・他のグループのお話を参考に修正するところがあれば修正する。 	
終末	3 学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習をとおして今後の生活に生かしていきたいことを振り返りシートにまとめる。(⑧) 	<p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめが解消される自分にあったよりよい解決方法を考え実践しようとする。（振り返りシート）

《ワークシート》

ワークシート

「Bさん」のいじめが解消されるお話の続きをグループで考えましょう。

「どうしょっかな」

[...] その夜、わたし（A）はふとんに入りながら、つぶやきました。

「どうしょっかな」

小学校学級活動指導例

- 題材「輝く今を、そして未来を生きるために ～みんなで考えようインターネットとの関わり方～」
【学級活動（2）イ よりよい人間関係の形成】

○ ねらい

スマートフォンやゲーム機、音楽プレーヤー等インターネットに接続できる通信機器（インターネット端末※）の普及により発生しているトラブルを知り、インターネット端末がもっている利便性と危険性について理解するとともに、インターネット端末と上手に関わるためのルールやマナーについて考え、実践しようとする意欲や態度を育てる。

※…パソコン、スマートフォン、タブレット、ゲーム機、音楽プレーヤー、据置き型ゲーム機、テレビ
【人権教育を通じて育てたい資質・能力】

- ・人権の観点から自己自身の行為に責任を負う意志や態度

○ 指導の展開及び指導上の留意点 ※丸数字は「とっりの授業改革【10の視点】」

	学習活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
導入	1 めあてや進め方について説明を聞く。 (1) 実態アンケート結果について (2) めあてについて (3) 進め方について	<ul style="list-style-type: none"> ・発言しやすいようにグループ（4人程度）の座席にしておく。(⑩) ・実態アンケート（インターネットの利用に関する児童生徒アンケート）の結果を踏まえ、思ったことや考えたことを自由に意見交換させることで学習への意欲を高めたい。 	<p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の問題であることに気づき、学習に取り組もうとしている。
展開	2 インターネット端末（特にスマートフォン）を使う場合の利便性と危険性について話し合う。 (1) 利便性（「いいところ」）について (2) 危険性（「怖いところ」）について	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の自由な考えを大切にするためブレインストーミング法で話し合いを進めさせる。 ・意見が分かれた場合は、合意形成しながら利便性と危険性に整理させる。 ・特に危険性については、映像資料、新聞報道資料等を紹介し、携帯電話等の危険性は身近な問題であることを感じとらせる。(③) 	
	3 インターネット端末（特にスマートフォン）と上手に付き合うためのルールやマナーについて考える。 (1) 個人思考 (2) 集団思考 (3) 全体共有 (4) 個人思考	<ul style="list-style-type: none"> ・思考ツール（付箋・ミニホワイトボード等）を活用し、個人の自由な考えを大切にさせる。(④) ・集団思考（⑥）の際は自分の考えや理由を筋道立てて説明するようにさせる。(⑤) ・全体共有を見据えて発表者はあらかじめ決めておく。なお、発表時間が取れない場合は発表して欲しい内容のグループのみの発表とする。 ・全体共有を踏まえ個人で実践していくことを決定させる。 	<p>【思考・判断・実践】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スマートフォンを持った時のルールやマナーを考えている。
終末	4 学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習をとおして今後の生活に生かしていきたいことを振り返りシートにまとめる。(⑧) 	<p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分にあつたよりよい解決方法を考え実践しようとする。(振り返りシート)

《ワークシート》 学習活動2・3は以下のワークシートを用いて学習を進めることもできる。

輝く今を、そして未来を生きるために ～みんなで考えようインターネットとの関わり方～

- 1 インターネット端末の「いいところ」・「怖いところ」ってどこですか？

いいところ



怖いところ



- 2 インターネット端末（特にスマートフォン）を持つとき、どんなルールやマナーが必要だと思いますか。



- 3 インターネット端末を使う時のルールやマナーで「これから1週間取り組むこと」を一つ選んで書きましょう。



学校教育編：D

【学習資料】朗読劇 ○○君のイライラ

ナレーター これはある家族の朝のひとコマです。中学生の○○君は最近イライラしているようで、いつも不機嫌な顔をしています。

母 「○○、やっと起きてきたのね。早くしなさい！ 学校に遅れるわよ！」

ナレーター ○○君は無言で食卓に座ります。

母 「また朝から不機嫌な顔して……。おはようぐらい言えないの？」

○○ 「(小さな声で) 自分も言ってねえし。」

母 「毎日毎日不機嫌な顔をして。何が気に入らないのか知らないけど、お母さんだって忙しいんだから、早くしてよ！」

○○ 「うぜえ。マジ、むかつくし。」

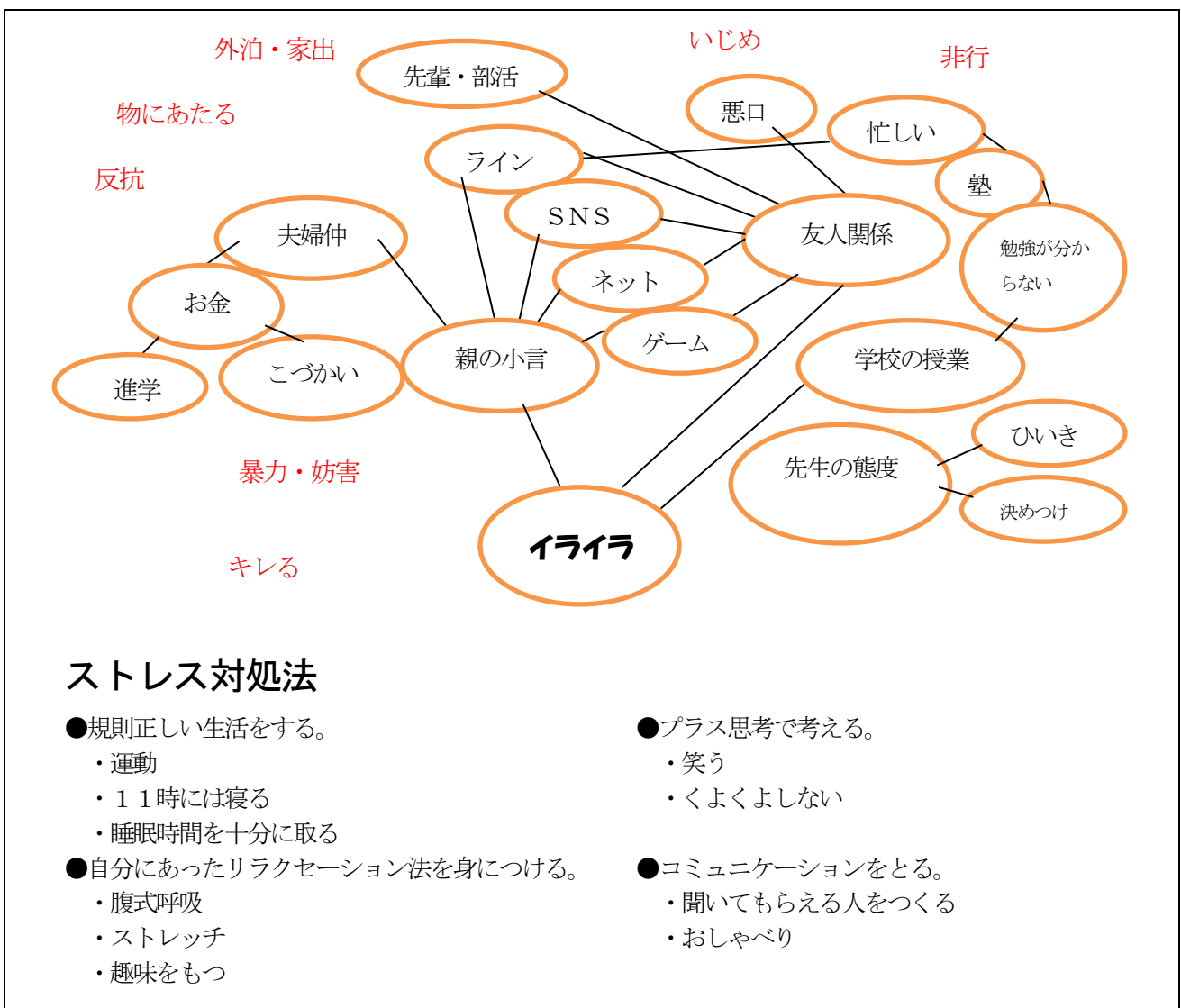
ナレーター ○○君はいきなり食卓を立て、無言で学校に出かけて行きました。

母 「行ってきますくらい言いなさい！ほんとにもう！」

ナレーター はてさて、○○君のイライラはどこから来ているのでしょうか？何か解決策はあるのでしょうか？皆さん一緒に考えてみてください。

模造紙の使い方について (展開例)

*赤字はストレスが引き起こす「心と体の状態」



中学校学級活動指導事例

- 題材「心身ともに健康に生活するために大切にしたいこと ～ストレスとの上手なつきあい方～」
 【学級活動（２）エ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成】

○ ねらい

自己の生活の充実と向上に関わる問題に関心を持ち、自己を生かしながら解決方法等について考え、心身ともに健康で安全な生活を送ろうとする意欲を高める。

【人権教育を通じて育てたい資質・能力】

- ・適切な自己表現等を可能とするコミュニケーション技能
- ・自己についての肯定的態度（自尊感情等）

○ 指導の展開及び指導上の留意点

※丸数字は「とっとりの授業改革【10の視点】」

	学習活動	指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価方法
導 入	1 朗読劇を聞いた感想を話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・代表で役割演技を行う。 【学習資料:朗読劇 ○○君のイライラ】 ・発言しやすいように4人組グループの座席にしておく。(10) 	
展 開	2 班（4人程度）で自分がストレスを感じる場面（時や事から）を書き出していく。 ＊模造紙上部に記入 3 班でストレスが引き起こす心と体の状態を書き出す。 ＊模造紙上部に記入 ・書き出したものをもとに、感じたことを話し合う。 4 班でストレスに対処するために、できることは何かを書き出す。 ＊模造紙下部に記入 5 ポスターセッションの方法で発表をする。 ＊3分×2セット（セットごとに発表者を交代する。）	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェビングについて展開例をもとに説明する。 ・会話をしながら思いついたものをどんどん記入するよう助言する。(2) ・ワークシートを活用することもできる。 ・日常生活と結びつけて考えるよう助言する。 ・ワークシートを活用することもできる。 ・あらかじめポスターセッションの方法で発表することを伝え、対処法がまとまった班は、班で練習させる。(4)(5) ・ワークシートを活用することもできる。 ・A、Bグループに分け、1セット目は同じグループの班の発表を聞き、2セット目は違うグループの班の発表を聞きに行く。(6) ・2セット終わったら、グループでシェアする。 	<p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ストレスが心身の健康に様々な影響を与えることを理解している。(模造紙・観察) <p>【思考・判断・実践】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分に合ったストレス対処法を考えている。(模造紙・観察)
終 末	6 心身ともに健康な生活を送るために大切にしたいことについて考えをまとめる。 7 教師の話聞く。	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに学習を振り返り、自分で取り組みそうなことを決めさせる。(8) ・PTA研修会で作成した模造紙を提示し、個人で出来ることや家族みんなで出来るようなことを家族で考えてみるよう助言する。(9) 	<p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心身ともに健康な生活を送ろうとする意欲を高めた。(ワークシート)

《ワークシート》

ワークシート

- 1 自分がストレスを感じる場面（時や事がら）をできるだけたくさん書きましょう。

- 2 ストレスが引き起こす心と体の状態にはどのようなものが考えられるでしょうか。

*ストレスが引き起こす心と体の状態は、心理的・生理的な過緊張によって生じますが、性格・体質・生活習慣・考え方・行動パターンなどに応じて、実際に生じる具体的な（ストレスが引き起こす心と体の）状態は人それぞれです。

- 3 ストレスと上手につきあっていく方法をできるだけたくさん考えましょう。

*ストレスと上手につきあっていくためにポイントとなるのが、「ストレスコーピング」です。コーピングとは、「対処法」「適切に対処する」という意味です。ストレスをなくすのではなく、ストレス状況、ストレス反応、人間関係に上手に対処することができれば、自分のストレスマネジメント力を強めることができます。

- 4 ふりかえり

【学習資料】

<学校の授業を受けて、帰宅後の食事中的会話>

子ども：今日、「いじめ」について授業があった。

なんかよくわかんないけど、急に無視されて・・・

結局死にたいって思うほどになっていく。

そんなふうになったら、やっぱり怖いなあ。

保護者：そうだね。

いじめって、よくないよね。

子ども：んー、いじめはよくないってわかってる。

「なくさないといけない！」

なんてカッコいいこと言ったけど・・・

本当は関わりたくないな。

いじめを見ても、自分は・・・何もしないかも。

保護者：どうして？

子ども：だって・・・

誰かをかばったり、反抗したりしたら、

明日から自分がいじめられちゃうじゃない！

そんなのいやだ！！

保護者：・・・そうかなあ。

子ども：よく、相談しなさいって言われるけど、

そんなことできるわけないよ。

どうせ、相談しても解決しないし、

そもそもいじめられる側にも・・・

保護者：でも、いじめはいじめる側が100%悪いと思うよ。



中学校「特別の教科 道徳」指導例

- 題材 「いじめ『あなたはどう考えますか?』」【内容項目 C-(11) 公正, 公平, 社会正義】
- ねらい

いじめはなくせないと消極的な態度をとる傍観者の心情を考えることを通して、いじめの不当性を理解し、いつでも、誰に対しても公正・公平に接し続ける道徳的態度を育てる。

【人権教育を通じて育てたい資質・能力】

- ・正義、自由、平等などの理念の実現、社会の発達に主体的に関与しようとする意欲・態度

- 指導の展開及び指導上の留意点 ※丸数字は「とっりの授業改革【10の視点】」

	学習活動	主な発問と生徒の反応	指導上の留意点と評価方法(※)
導入	1 学習資料を読み、学習課題を知る。		<ul style="list-style-type: none"> ・グループの座席(3・4人組)にしておく。(10) ・PTA 研修等で作成した成果物等があればそれを示し、学習意欲を高める。(1)
展開	<p>2 問について、3つの視点から考え、話し合う。</p> <p>【話し合い(1)】</p> <p>問について各グループで担当資料を踏まえて話し合い、各自が考えたことを模造紙に書き込む。</p> <p>【話し合い(2)】</p> <p>3つの視点が存在するように新しいグループになり、問について考え、各自が考えたことを模造紙に書き込む。</p> <p>【話し合い(3)】</p> <p>もとのグループに戻り、持ち帰った考えを出し合い、各グループの考え方を交流する。</p> <p>3 各グループで話し合ったことを発表する。</p>	<p>問:「いじめはいじめる側が100%悪いと思うよ」についてどう考えますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめられる側にも問題がある ・いじめは何があってもやっつけてはいけないと思う ・やることの度合によって決まるんじゃない ・些細なことでもいじめになるのか ・いじりもいじめになる ・いじめは学ぶ権利や生きる権利を奪っていると思う ・法律に触れるんじゃない ・当事者の気持ちを考えることが大切だと思う 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの流れについて説明する。【ワールドカフェ】 <例> 資料 A:いじめの定義の視点 資料 B:当事者の視点 資料 C:子どもの権利の視点 ・模造紙への書き込みは、意見を聴く立場の生徒が行う。 ・4人組で実施した場合、新しいグループは資料が重なる生徒がいることに留意する。 ・話し合いの状況を見て、いじめの行為といじめの理由を分けて考えるよう促す。 ※意見交流により、様々な視点から考えた多様な意見を受け止めている。(観察)(6) ※いじめの不当性を理解し、いつでも誰に対しても公正・公平に接し続けようとしている。(記述)(5)(6)
終末	<p>4 活動を振り返る。</p> <p>5 教師の話を聞く。</p>	<p>○今日の話合いで感じたことをまとめてみよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いで出された意見をもとに、自分の考えをまとめ、本時の感想をふりかえりシートに記入させる。(4)(8) ※いじめを許さない心情を高め、相手の気持ちになって考え、正しいことを主張しようとする意欲を高めたか。(ふりかえりシート) ○どんな理由があってもいじめという行為は許されない人権侵害である。 ○いじめは必ずなくせる。いじめの起こらないクラスをみんなで作ろう。

《資料》

資料A

「いじめの定義」 ※省略

いじめの定義→ http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1302904.htm

資料B

いじめ当事者の手記等

資料C

「子どもの権利条約カード」 ※1 ページのみ添付（2 ページあり）

子どもの権利条約カード→ <http://www.pref.tottori.lg.jp/97375.htm>

子どもの権利条約カード		
第1条 子どもは18才未満		
この条約では18才になっていない人を子どもとします。	チェック1	
	チェック2	
第2条 差別されない		
子どもは、人種、性別、文化、意見、障がい、生まれたところなどの理由で差別されません。国はできることを全てします。	チェック1	
	チェック2	
第3条 その子どもにとって最もよいことを		
子どものために何かを行うときは、その子どもにとって最もよいことは何かを考えた上で行います。	チェック1	
	チェック2	
第4条 国がすべきこと		
国は、この条約で認められた権利を実現するために、できることは全てします。	チェック1	
	チェック2	
第5条 父母（保護者）はふさわしい指導を		
父母（保護者）は、その子どもの成長のためにふさわしい指導をする責任と権利があります。	チェック1	
	チェック2	
第6条 一人一人の子どもの生命を大切に		
子どもの生命は大切にされます。子どもの生命が大切にされ、子どもが成長できるよう、国はできるだけのことをします。	チェック1	
	チェック2	
第7条 名前と国籍を持てる		
生まれた子どもは、名前と国籍（こくせき）を持てます。また、できるだけ父母を知り、父母によって育てられます。	チェック1	
	チェック2	
第8条 国籍や名前等は大切にされる		
子どもの国籍（こくせき）や名前等は大切にされます。これらが大切にされていない時は、国はなるべく早くよい状態にします。	チェック1	
	チェック2	
第9条 父母から引き離されない		
子どもは父母から引き離されません。一緒（いっしょ）に暮らさない方がその子どもにとって最もよいと考えられる場合を除きます。	チェック1	
	チェック2	
第10条 別の国にいる父母と会える		
子どもが父母と別の国に住んでいる時、国は一緒（いっしょ）に暮らせるよう、または定期的に会えるよう努力します。	チェック1	
	チェック2	
第11条 自分の国で暮らせる		
子どもは自分の国で暮らせます。国は、子どもが外国に連れ去られたり、外国から帰れなくなったりしないようにします。	チェック1	
	チェック2	
第12条 自分の意見を表明できる		
子どもは自分の意見を表明できます。子どもの意見は、子どもの成長ぶりにあわせて大切にされます。	チェック1	
	チェック2	
第13条 自由に表現できる		
子どもは色々な方法で情報を手に入れたり、表現したりできます。ただし、他の人に迷惑をかけてはいけません。	チェック1	
	チェック2	
第14条 思想・良心・宗教を決められる		
子どもは思想・良心・宗教を自分で決められます。父母（保護者）の考えは、子どもの成長ぶりにあわせて大切にされます。	チェック1	
	チェック2	
第15条 集会を開ける		
子どもは自分たちの会を作ったり、その会に集まったりできます。ただし、他の人に迷惑をかけてはいけません。	チェック1	
	チェック2	
第16条 プライバシーを守る		
子どもは私生活をあばかれたり、名誉（めいよ）を傷つけられたりしません。国はそのような行いから子どもを守ります。	チェック1	
	チェック2	
第17条 よい情報を手に入れられる		
子どもが心や体を成長させるためによい情報を手に入れられるよう、国はテレビ番組を作る人や本を作る人たちに働きかけます。	チェック1	
	チェック2	
第18条 子どもの成長は父母（保護者）の責任		
父母（保護者）は子どもの成長に責任をもちます。国は、父母（保護者）が責任をはたせるよう応援します。	チェック1	
	チェック2	
第19条 ひどい行いから守られる		
子どもの心や体に暴力をふるう、子育てをやめてしまう、その他の色々なひどい行いを受けないよう、国は子どもを守ります。	チェック1	
	チェック2	
第20条 家族を奪われた子どもは守られる		
何かの理由で、家族を奪（うば）われた子どもや、家族と一緒に（いっしょ）に暮らせなくなった子どもが成長できるよう、国は子どもを守ります。	チェック1	
	チェック2	

【参考資料】

<ワールドカフェとは？>

「ワールドカフェ」は、カフェでの会話をするように、気楽な雰囲気の中で意見を出し合います。また、時間を区切って他のテーブルに移動し別の人たちとの会話を楽しむことができます。

第1ラウンドでは、現在のテーブルで約15分間話し合いをします。

第2ラウンドでは、テーブルホストはそのテーブルに残って、それ以外の方はそれぞれ別のテーブルに移動して、新しいメンバーで約15分間話し合いをします。

第3ラウンドでは、また、テーブルホストはそのテーブルに残って、それ以外の方はそれぞれ別のテーブルに移動して、新しいメンバーで約15分間話し合いをします。

第4ラウンドでは、最初のテーブルにもどり、最初のメンバーで感想などを出し合います。

そして、最後に全員でわかちあいをします。

テーブルホストの役割・・・

1. はじめのグループから動かず、そのグループに残ります。
2. 新しいメンバーに、模造紙に書いてあることなどの説明をしたり、質問に答えたりします。（簡単に、簡潔に）
3. グループの一人だけが話してしまうことがないように配慮します。
4. 話し合いのルールを確認します。